

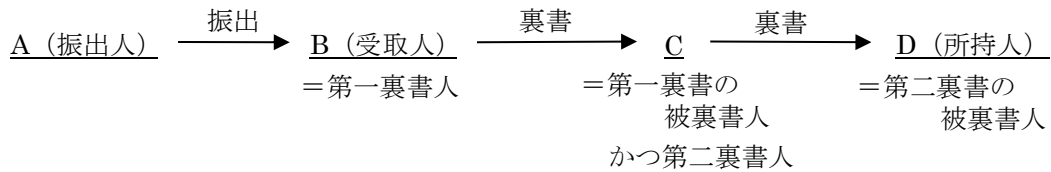
4.裏書

4-1.約束手形の譲渡

(1)裏書の意義

事例 4-a 約束手形の裏書

AはBから商品を仕入れ、代金の支払のため、Bを受取人とし、満期を3か月後の○月○日とする約束手形を振り出した。Bは、この手形を満期前にCに裏書譲渡した。Cは、この手形を満期前にDに裏書譲渡した。Dは満期にこの手形を支払呈示し、手形金の支払を受けた。



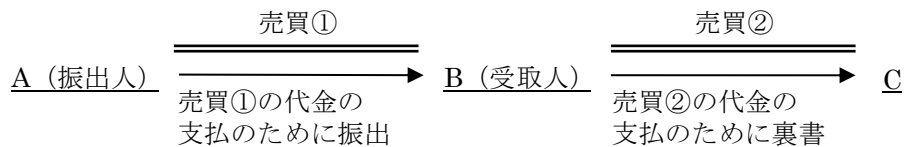
裏書＝①裏書の記載と署名＋②被裏書人に交付

(2)裏書の原因関係

手形割引 (1-2(2)) ＝手形そのものの売買 (銀行取引約定書)

事例 4-b 裏書の原因関係

AはBから商品を仕入れ (売買①)、代金の支払のため、Bを受取人とする約束手形を振り出した。Bは、Cから商品を仕入れ (売買②)、代金の支払のため、上記の手形を満期前にCに裏書譲渡した。



→売買①の債務はいつ消える？

(3)裏書の要件——単純性（手 12 I ・ 77 I ①）・一部裏書（手 12 II ・ 77 I ①）

(4)裏書の方式（手 13 ・ 77 I ①）

統一手形用紙＝裏面に裏書欄：裏書文句・無費用償還文句

方式：①記名式裏書

②白地式裏書（手 13 II ・ 77 I ①）



裏書人	A

被裏書人	殿
裏書人	

被裏書人	殿

- [1] 「B」と補充し次の欄に（記名式 or 白地式）裏書
（手 14 II ①：「自己ノ名称」）
- [2] 「C」と補充し交付（手 14 II ①：「他人ノ名称」）
- [3] 補充せず次の欄に記名式裏書 or 白地式裏書（手 14 II ②）
- [4] 補充せず交付（手 14 II ③）

* [2][4]なら B は裏書人として署名せず
＝担保責任（手 15 I ・ 77 I ①）を負わず

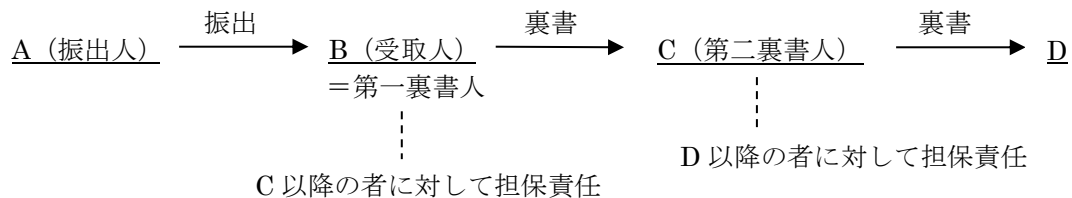
4-2. 譲渡裏書の効力

(1) 権利移転的効力 (手 14 I ・ 77 I ①)

裏書と手形外の権利 [テキスト 11.2.1]

- ・ 手形外の権利 (手形債権に関する違約金請求権 etc.) は当然には移転せず
- ・ 保証債権 : 手形債務について民法上の保証
→ 移転 (最判昭 45・4・21 民集 24-4-283) ∴ 保証債務の附従性・随伴性

(2) 担保的効力 (裏書人の担保責任) (手 15 I ・ 77 I ①)

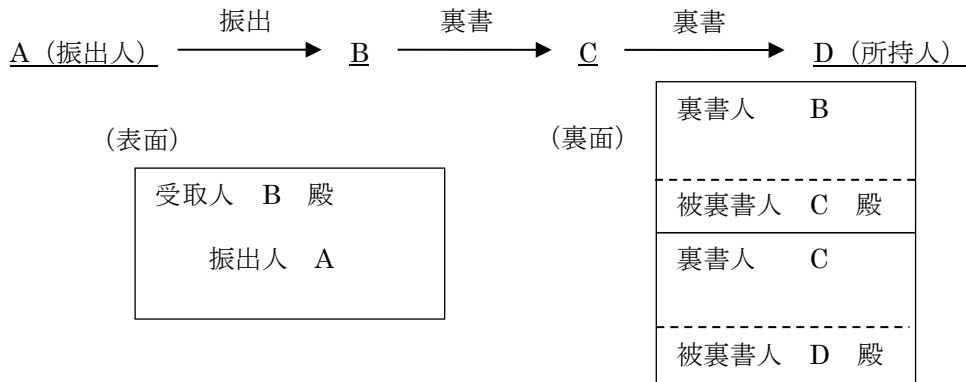


担保責任の趣旨

担保責任を排除する方法 [テキスト 11.2.2]

- ・ 無担保裏書 (手 15 I ・ 77 I ①)
= 「支払を担保しない」旨を手形に記載して裏書 (「反対ノ文言」)
→ 一切担保責任を負わず
 - ・ 裏書禁止裏書 (手 15 II ・ 77 I ①)
= 新たな裏書を禁じる旨を手形に記載して裏書
→ 直接の被裏書人に対してだけ担保責任を負う (その後の者に対しては負わず)
- * いずれも日本ではあまり用いられず

(3)資格授与的効力 (形式的資格) (手 16 I 第 1 文・77 I ①)

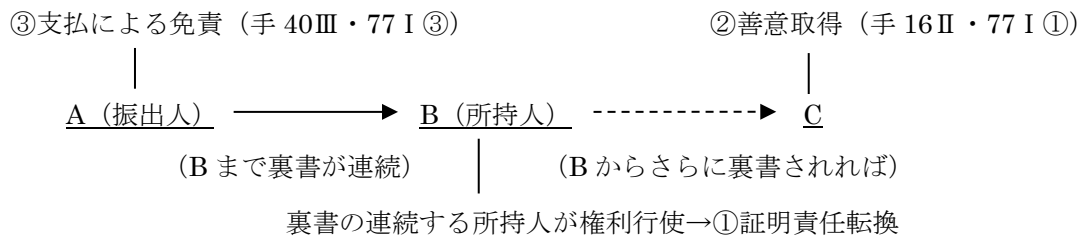


裏書の連続の主張 [テキスト 11.3.4]

最大判昭 45・6・24 民集 24-6-712

「手形法一六条一項 (同法七七条一項一号により約束手形に準用。以下同じ。) の適用を主張するには、連続した裏書の記載のある手形を所持する事実を主張することを要するとするのが当裁判所の判例 (最高裁判所昭和…四一年三月四日第二小法廷判決、民集二〇卷三号四〇六頁) であるが、およそ手形上の権利を行使しようとする者は、その所持する手形の裏書の連続が欠けているような場合は格別、裏書が連続しているかぎり、その連続する裏書に基づき権利者となつてゐることを主張するのが当然であつて、この場合、立証が必ずしも容易でない実質的権利移転の事実をことさらに主張するものとは、通常考えられないところである。それゆゑ、原告が、連続した裏書の記載のある手形を所持し、その手形に基づき手形金の請求をしている場合には、当然に、同法一六条一項の適用の主張があるものと解するのが相当である。」

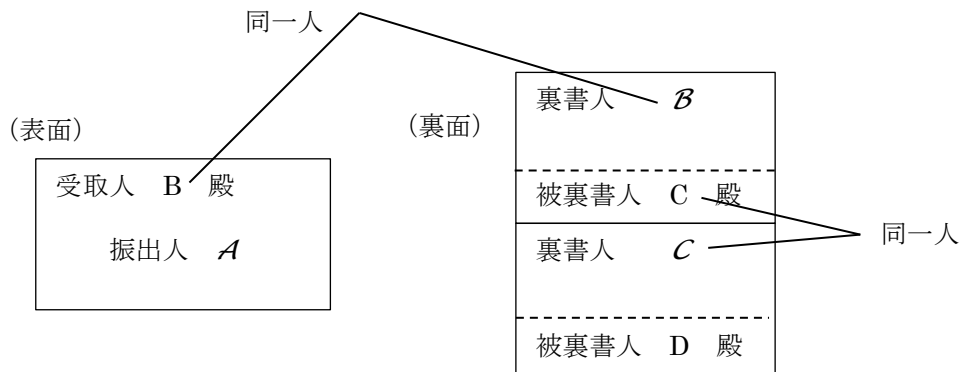
(4)資格授与的効力の帰結 (裏書連続の効果)



⇔最終の被裏書人と手形所持人の同一性

4-3.裏書の連続

(1)裏書連続の判断——裏書が手形面上の記載において途切れずに続くこと



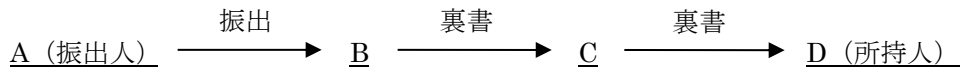
*斜体は署名（記名捺印）、通常の字体は名称の記載

(2)被裏書人の記載と次の裏書人署名の一致の程度 [テキスト 11.3.3(2)]

被裏書人「A 会社 B」 →裏書人「A 会社 代表取締役 B」	最判昭 27・11・25 民集 6-10-1051 被裏書人は「A 会社」を表示、連続あり
受取人「A 会社 支店長 B」 →裏書人「B」	最判昭 30・9・30 民集 9-10-1513 受取人は B 個人を表示、連続あり
被裏書人「A 会社」 →裏書人「A 会社 B」	最判昭 56・7・17 金判 630-15 裏書人は「A 会社」を表示、連続あり

明確に違う場合（芸名・通称 [三島由紀夫] と本名 [平岡公威]）

(3)白地式裏書が介在する場合（手 16 I 第 2 文 4 文・手 77 I ①）



①	②	③												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 B</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 C</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 D 殿</td></tr> </table>	裏書人 B	被裏書人 殿	裏書人 C	被裏書人 D 殿	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 B</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 C</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 殿</td></tr> </table>	裏書人 B	被裏書人 殿	裏書人 C	被裏書人 殿	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 B</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 殿</td></tr> </table>	裏書人 B	被裏書人 殿	裏書人	被裏書人 殿
裏書人 B														
被裏書人 殿														
裏書人 C														
被裏書人 D 殿														
裏書人 B														
被裏書人 殿														
裏書人 C														
被裏書人 殿														
裏書人 B														
被裏書人 殿														
裏書人														
被裏書人 殿														

(4)裏書の抹消（手 16 I 第 3 文・77 I ①）

①	②	③																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 B</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 C 殿</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black; padding: 2px;">裏書人 C</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 E 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 C</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 D 殿</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">所持人=D</p>	裏書人 B	被裏書人 C 殿	裏書人 C	被裏書人 E 殿	裏書人 C	被裏書人 D 殿	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 B</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 C 殿</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black; padding: 2px;">裏書人 C</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 D 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 D</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 E 殿</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">所持人=E</p>	裏書人 B	被裏書人 C 殿	裏書人 C	被裏書人 D 殿	裏書人 D	被裏書人 E 殿	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 B</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 C 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 C</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 D 殿</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">裏書人 E</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px dashed black; padding: 2px;">被裏書人 F 殿</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">所持人=F</p>	裏書人 B	被裏書人 C 殿	裏書人 C	被裏書人 D 殿	裏書人 E	被裏書人 F 殿
裏書人 B																				
被裏書人 C 殿																				
裏書人 C																				
被裏書人 E 殿																				
裏書人 C																				
被裏書人 D 殿																				
裏書人 B																				
被裏書人 C 殿																				
裏書人 C																				
被裏書人 D 殿																				
裏書人 D																				
被裏書人 E 殿																				
裏書人 B																				
被裏書人 C 殿																				
裏書人 C																				
被裏書人 D 殿																				
裏書人 E																				
被裏書人 F 殿																				

最判昭 61・7・18 民集 40-5-977

「約束手形の裏書欄の記載事項のうち被裏書人欄の記載のみが抹消された場合、当該裏書は、手形法七七条一項一号において準用する同法一六条一項の裏書の連続の関係においては、所持人において右抹消が権限のある者によつてされたことを証明するまでもなく、白地式裏書となると解するのが相当である。ただし、被裏書人欄の記載が抹消されたことにより、当該裏書は被裏書人の記載のみをないものとして白地式裏書となると解するのが合理的であり、かつ、取引通念に照らしても相当であり、ひいては手形の流通の保護にも資することになるからである。」

(5)裏書の不連続と権利行使（最判昭 31・2・7 民集 10-2-27）——どこまで証明？

①

裏書人	B

被裏書人	C 殿
裏書人	C

被裏書人	D 殿

所持人=E

②

裏書人	B

被裏書人	C 殿
裏書人	D

被裏書人	E 殿

所持人=E

②→架橋説

4-4.裏書によらない権利移転 [テキスト 11.3.7]

(1)法律上当然の指図証券（手 11 I ・ 77 I ①）・裏書禁止手形（手 11 II ・ 77 I ①）

統一手形用紙＝指図文句記入済み→抹消の必要？（最判昭 53・4・24 判時 893-86）

(2)債権譲渡の方法による手形の譲渡（手 11 II ・ 77 I ①、民 467）

最判昭 49・2・28 民集 28-1-121（裏書禁止手形でない手形の債権譲渡の方法による譲渡）